第５回マツダ財団サロン
「乳幼児の母親支援」について

母親の孤立を構造的に理解する

大橋良枝（聖学院大学）

This work was supported by a research grant from The Mazda Foundation

パイロット研究/ 先行研究を受けて・・・

＜構造上の課題＞

・預け先が無い・・

・携帯を手放せない・・

＜心理的な課題？＞

怒りではなく叫び：言葉にならない訴えと、受け取り難さ

・・・母親個人の問題・未熟性と受け取られやすい

⇔　受け止められないことの「責任転嫁」

● 受け取り難さを越えて聞くこと　⇒　認識的信頼（Epistemic Trust）

※母親の未熟性と捉えることで、発達していける可能性を、

切り捨て/個人の責任にしていないか？

● 聞いてもらえていない関係性の問題を考える。

⇒神話、社会構造、家族内での関係性の問題・・・個別の構造的理由があるのでは。

International Association of Group Psychotherapy and Group Processe：Groups of isolated mothers: Breaking free from motherhood myths and isolation（2022）

母親信仰が根強く残る日本社会（大日向, 2015)

母親信仰：母親が自己犠牲的に子どもに献身することであり、それは女性の本能である。

日本社会で養育上の問題が起きると、母親たちは加害者として糾弾されやすく、また常識化された母性信仰の逸脱者であるがゆえに社会からの被害者となりやすいという社会的な構図（大日向, 2015）。

母性信仰の強さゆえに母親たちが孤立しやすい状況がある（大橋, 2019)。

これらの母親信仰は、日本に独特のものなのだろうか？

再び、日本独自か、普遍的か？

横山博 (1995):
日本の女神：子どもへの愛着を断ち切るために自らを消し去る。

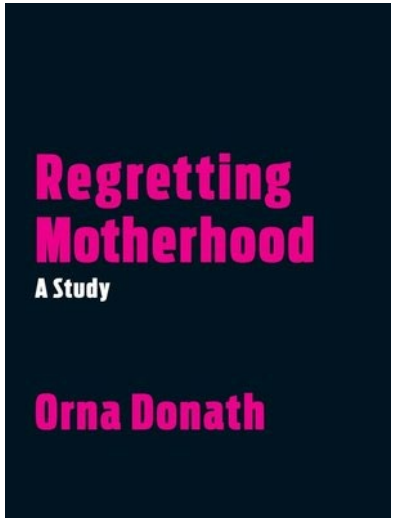
「母親の最も重大な関心は家族の関係性の在り方であって、個性を持った女性としての生き方ではない」

⇔ 「子どもを呑み込むような強烈な愛は成長段階で必要なくなる。その時母親は消されたり、冥界に閉じ込められたりする」

「良い母親」という社会的価値観と
1人の女性である「個人」

社会背景

[日本独自か？普遍的か？]



Orna Donath (イスラエル)
「母親になって後悔している」ベストセラー。

「イスラエルにおける母親であることこそ、女性の幸せである」という通念の強さと、
それに<u>締め付けられる女性の苦しみ</u>。

社会背景

[母親の孤立と 不適切な子育て]

厚生労働省「健やか親子21(2001)」：
　母親の孤立感 ＝ 子どもの虐待の一要因

2016年 NHK「ママたちが非常事態！？」
乳児を抱える母親たちの孤立感と育児の苦しみの実態

普通の「ママたち」が孤立感を抱え，
自分が虐待をしてしまうことを恐れて
生活していることが露わに。

社会背景

[孤立]

大橋（2019）：孤立を感じ、援助を求められない教師や福祉士の心理的要因を、文化的価値と言った外的要因と、個人に内在化されたその価値に伴う罪悪感の両側面から論じてきた。

揖斐・西村・大橋（印刷中）：発達障害児の母親たちのグループを通して、その子どもたちが子育ての難しい子どもであり、ほぼ一人で奮闘しているにもかかわらず、学校や母親仲間の間はおろか、家族の中でも「ダメな母親」と実際に批難され、あるいは、自分でもそう感じ、ひたすらに怒り、孤立感を感じていた。

➢「完璧な母親を強く求めること」・・・**母親信仰**

事例

裕子 (31歳)　主婦 (出産前はエンジニア)
　次女が1歳になるまで、摂食障害の既往あり。

夫（32歳）　中国に単身赴任。
4歳、1歳の娘。

地元の保健所に家族内のストレス相談➢心理相談室へ。

主訴： 夫へのイライラが止まらない。怒りでドアを壊してしまったり、長女に暴言を吐いたりしてしまう。普通ではないと思って相談に来た。

事例

原家族：地方で育つ。4人姉妹の末っ子。母親は保健師。

父親はアルコール中毒で家にお金を入れなかった。
母親は父親から離れるために4人の子どもを連れて夜逃げ（裕子小２時）。

母親が一人で働いて4人の子育て。

長女は双極性障害の既往あり。

事例

個人面接時：

初期　父親への気持ちの整理。夫への怒りは減少し、徐々に自分個人の内的な問題に移行。

母親への理想化：懸命に働き子どもに不自由させなかった母。

6か月の個人セッションの後、集団精神療法へ（マツダ財団助成による実験的集団精神療法）。

「他のお母さんたちが何を考えているのか知りたい」

事例

【お母さんのグループ】

母親として生きることの難しさを抱えている人たちへ・・

・完璧になれない自分や家族、子どもに怒りを持つ自分を責める気持ち

・孤独感

・同じような思いを持つお母さんたちと話してみないか？

出産前のプレママから、
2歳未満のお子さんを
子育て中のママ対象

家からつながる
赤ちゃんを抱えた
お母さんのグループ

母親になるというのは、思っていたより簡単ではないですね。

こんなに小さな自分の子供に対してイライラするものだろうか

私は大人の女性として何か問題があるんじゃないか

私は母親失格じゃないだろうか

自分も虐待する母親になってしまうんじゃないだろうか

そんな不安を抱えながら、一番つらい胸の内をだれにも相談できず、日々を過ごしているお母さんたちは、実はあなただけではありません。

一人でこういった心の状態に立ち向かうのは難しいことです。
同じように悩んでいる仲間を探しにいらっしゃいませんか。

心理学の専門家が、子育て中に起こりがちな、必要以上に悪く考えてしまう心の状態を改善していくプログラムをご用意します。皆さんが一人で抱えている心の不安を、安全に語り合う場を提供し、皆さんの子育てがもっと幸せで喜びに満ちたものになるよう、お手伝いしたいと思っています。

Zoomというツールで、ご自宅からネットを通して参加できます。プログラム中に授乳もおむつ替えもできます。Zoomの始め方動画もご用意しています。

プログラムについて、さらに詳しくお知りになりたい場合は、以下の説明動画をご覧ください。

第34回 マツダ研究助成による支援を受けておりますので参加費は無料となります（研究へのご協力をお願いしています）。

プログラム責任者
聖学院大学心理福祉学部
教授 大橋良枝

https://ohashi-lab.com/

事例

グループメンバー

●裕子

●直子：40代。対人援助職者。夫海外勤務。小学生の娘と3歳の息子。対人関係トラウマ。「集団が嫌い。けれど、集団に価値があるとも感じている、だから、集団嫌いを克服したい」

●文子：40代。元対人援助職。現在主婦。5歳の息子と1歳の娘。「息子の園行き渋りに悩んでいる」

事例

【裕子に着目して】

#1

裕子は、そのように考える自分を我儘だと考えていたが、メンバーたちが彼女の思いを分かってくれることを喜ぶ。

また、他のメンバーたちが、自分の子どもたちの感情に寄り添っていることにも大変驚く。

→他の母親たちのやり取りを見て、自分との違いに気づく。

「見て」「学ぶ」安全感

事例

#4

文子：自分の夫の母親が自らを変えてくれた。

それを聞いて裕子は、自分もまだまだ変われるかもしれないと希望を持つ。

→希望の注入

事例

#6、7
動乱期

裕子への対応を巡って、直子と文子の亀裂。

コンダクターは中立的に、全員の安心感を守るために応答。

裕子は驚いているものの、比較的大らか。

→2回にわたり、直子と文子の問題にかかわる話し合い。裕子は現実的に自分の体験を語る。

事例

＃８
コンダクター「完璧な親になるのは、誰にとっても難しいことよね」
直子は終わり際に丁寧に「ありがとうございました」と言う。

#9 直子は職場での体験を語る。全員がその話に耳を傾ける。
　裕子「直子の話を自分に当てはめずに聞くことができない。どうしたら人の話をそのまま聞けますか？」

#10 裕子はもはや夫から連絡が無くても気にならなくなってきたが、同時にそんな風に距離ができていいのかと悩んでいると言う。
直子は、コンダクターがグループの危機に堪えてくれたことに感謝。
裕子は、自分のカウンセラーが褒められるのを聞いて嬉しい、と言う。

結論

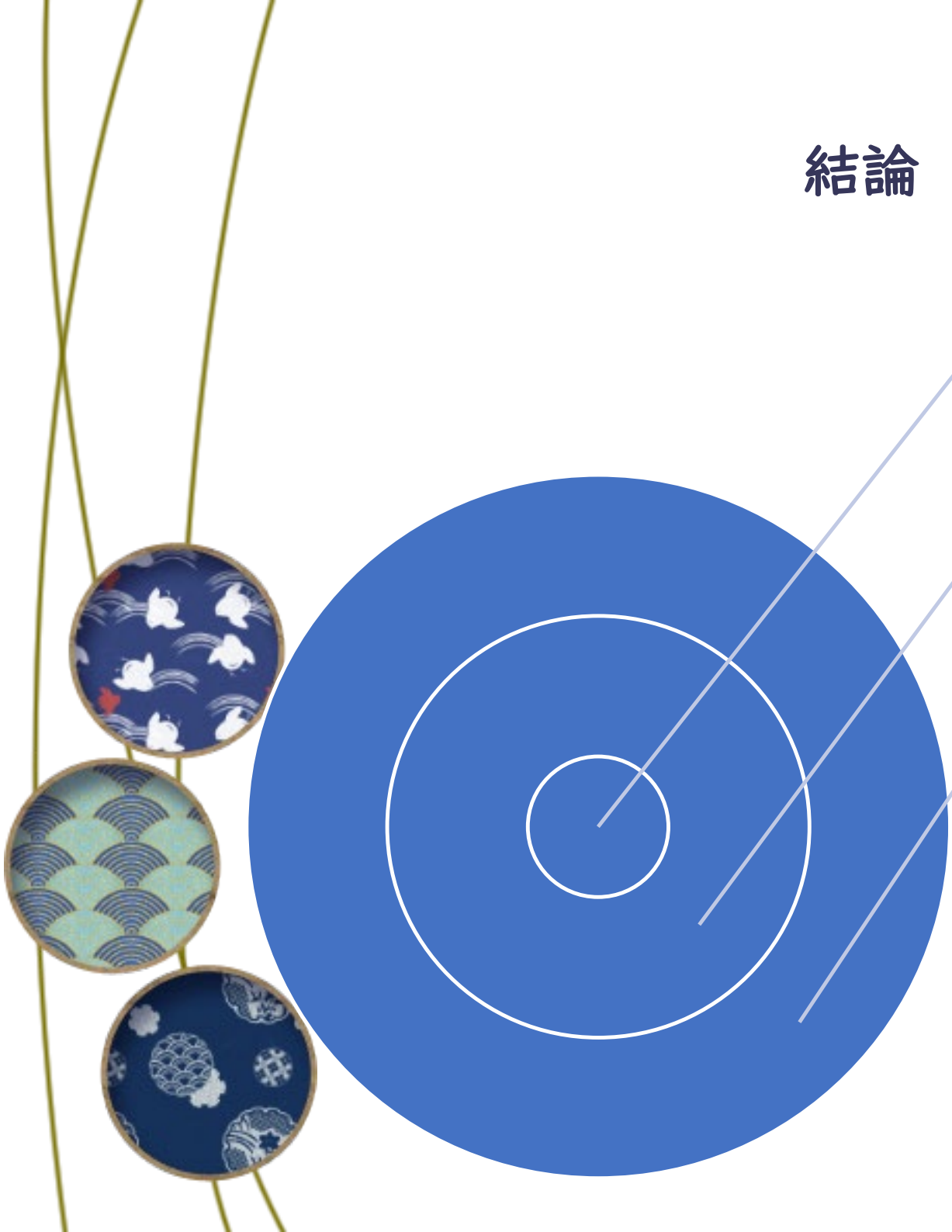
【母親を理想化することで自分を抑圧し、責める力動】
→母親信仰の影響で、とりわけその傾向が強くなるのかもしれない

●裕子の母親への理想化と、満たされない母親への欲求を夫に投影していた。
裕子の、自分の子どもたちをケアできない問題。・・母親の在り方に疑問を持てないまま、母になった。

●メンバーは裕子にケア的にかかわる
・・・ケアや共感性の高さに関わる、競争と嫉妬

日本の特徴：自分もまた自分の母親に対して完璧な母親幻想を維持したいと願いつつ、一方で完璧なお母さんを得られなかった怒りを抑圧しているという葛藤が一層強いのではないか。

結論



＜個別課題＞

母親の未熟性・青年期アイデンティティ発達の問題

＝揖斐ら2022　怒りを聞く

＜夫婦関係・家族関係の課題＞

家族集団の中での　母親役割

＝揖斐ら2022　叫びを聞く⇒欲求

＜社会・文化の課題＞

母性信仰（日本文化の特徴の有無？）

＝Ohashi 2022　文化を内在化してしまう・・母を母の位置に、自分を子どもの位置に置き続ける、あるいは、自分は不完全だと思うことで母の完全性幻想を守る。

Thank you for your attention !

Grazie per l'attenzione !

ご清聴ありがとうございました。